令和５年度　東海教育オーディオロジー研究協議会　第 20 回講演会

後援　東海地区聾学校長会

１　日　時　　令和６年１月２８日（日）１０：１０～１６：００

２　会　場　　名古屋市総合社会福祉会館　　TEL 052-911-3191
北区清水四丁目 17-1（北区総合庁舎内 7F）
※地下鉄名城線「黒川」下車徒歩５分、黒川交差点　南 300m

３　講　師　　あいち小児保健医療総合センター言語聴覚士　浅見　勝巳先生
同志社大学教授　中瀬　浩一先生

４　日　程　　9:50～10:10　　受付
10:10～10:15　　開会式・日程説明
10:15～11:45　　講演
『難聴児とそのご家族への支援のあり方について
～医療機関、教育機関の連携の大切さ～』
あいち小児保健医療総合センター言語聴覚士　浅見　勝巳先生
11:45～13:00　　昼食
13:00～15:30　　講演『「授業力向上」を考えるためのいくつかの視点』
同志社大学教授　中瀬　浩一先生
15:30～15:50　　質疑応答
15:50～16:00　　閉会式

５　参加費　　会員無料（非会員：１，０００円）
※当日会場にてお支払いください。

６　定　員　　６０名

７　申　込　　申込み期間　令和５年１２月１１日（月）～令和６年１月１１日（木）
・参加希望の方は、Googleフォームで、必要事項を記入・選択して、申し込んでください。
・情報保障（手話通訳）が必要な方は、申込みの際に選択してください。情報保障は、手話通訳のみです。

申込先　Google フォーム：　https://forms.gle/d3gUjkqSL9Wi2UMs5

・メールアドレス入力ミスにご注意ください。
・申し込み後すぐに、申込み完了メールが届きます。届かない場合は、メールアドレスの入力ミス、もしくは、迷惑メール等の設定をしている場合があります。
尚、申込期限間際は、申込みが集中します。その場合、一日の返信可能数に限りがあるため、申込み完了メールが届かない可能性があります。分散しての申込みに御協力ください。
・メールアドレスの入力ミスの場合は、再度Googleフォームでお申込みください。

＊ご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。
東海教育オーディオロジー研究協議会事務局
メールアドレス：toukai.ed.aud@gmail.com
ＨＰアドレス：http://www.normanet.ne.jp/~tokai/
※電話でのお問い合わせはご遠慮ください。

８　その他　　・公共交通機関でお越しください。
・昼食は、会場でおとりいただけます。

裏面に続く

９　紹　介

（1）午前の講師　あいち小児保健医療総合センター言語聴覚士　　浅見　勝巳先生

１９８５年　３月　筑波大学　人間学類卒業（心身障害学専攻）
１９８７年　８月　筑波大学　大学院中退（心身障害学研究科）
１９８７年　９月　愛知県総合保健センター　聴力音声言語診断部　入職
２００１年１１月　あいち小児保健医療総合センター　言語聴覚科　に配属
（２０２３年３月で定年退職、４月以降は常勤再任用職員として勤務）

〇講演要旨『難聴児とそのご家族への支援のあり方について
～医療機関、教育機関の連携の大切さ～』

長年、言語聴覚士として乳幼児の聴力評価、補聴器調整、人工内耳マッピング並びに言語指導に携わってこられたご経験を元に、難聴児とそのご家族への支援のあり方、医療機関と教育機関の連携の大切さについてお話いただきます。

（2）午後の講師　同志社大学教授　中瀬　浩一先生

1986 年より愛知県立千種聾学校、大阪市立聾学校教諭、筑波技術短期大学専任講師などを歴任。2015 年より現在まで同志社大学免許資格課程センターにて教授として教鞭をとられているとともに、複数の大学で非常勤講師としても勤務されている。視線行動に着目した授業分析や授業力向上をテーマにした研究をはじめ、さまざまな研究や執筆活動に積極的に取り組まれるだけではなく、京都府、奈良県、和歌山県等の聾学校の運営協議会会長や委員、アドバイザーを務められ、日本教育オーディオロジー研究協議会代表理事、ろう教育科学会編集委員を委任されるなど、多岐にわたり活躍されている。

〈主な論文〉

「ワイヤレス補聴援助システムを使った雑音負荷時のことばのききとり評価法-近畿地区聾学校における実施状況と課題-」

「アイトラッキングを活用したろう学校教員の授業中の視線行動の検討」

「聾学校における熟練ろう教員の授業に対する若手・中堅ろう教員による分析-特にろう教員に特徴的な動作や視線等に対する気付きを中心に-」

「視線配布分析と授業省察を活用したろう学校若手教員の授業力向上に関する縦断的研究」

〇講演要旨「『授業力向上』を考えるためのいくつかの視点」

「指導力の向上」はろう教育の最重要課題ですが、今回はちょっと変わった視点で考えてみます。まず、授業を行う基盤となる教師の「ふるまい」として、視線を題材にします。一般的な視線配布行動の特徴やアイトラッキング装置をろう学校員につけてもらった結果などの話です。後半は、日本語そのものについて考えてみます。あるところからの「問い合わせ」メールをきっかけに、一般の人に「きこえない子どもたちがかかえる日本語の力」について伝えることについて考え直す機会がありました。その返信から考えていきましょう。一方的な話にならないよう、参加のみなさまにも一緒に考えていただく内容をできるだけ取り入れながら進めていく予定です。　※夏の講演会の続編です。